

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100528		
法人名	株式会社 ベストケア		
事業所名	青森第2グループホーム		
所在地	青森県青森市青柳1丁目16-5-2		
自己評価作成日	令和2年12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3-20-30		
訪問調査日	令和3年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様のおうちの延長線上にある生活の場であることを意識した接遇を行っている。 ・集団生活ではあるものの、入居者様の生活リズムやペースに合わせたライフスタイルを重視している。 ・入居者様が持つ機能を少しでも長く維持できるように、調理の下準備等、自宅にいた頃行っていた普段の生活をリハビリとして取り組んでいる。 ・入居者様が必要とされている事を感じられるように、小さな役割を持っていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>市街地に近く、海が近くに見え、ねぶた祭りや花火を楽しむことができる景色の良い場所に建っている。医療機関との連携が強く、24時間訪問診療を受けることができるため、安心して生活することができる。交通の便が良いので、専門外来受診や買い物等の外出が便利であり、家族も訪問しやすい環境である。ホーム内は掃除が行き届き清潔であり、職員の声かけ等も静かになされ、落ち着いて安定した生活ができる。食事は外注だが、月1回の献立会議があり、行食は発注以外に職員の手作りで食事が提供され、季節を感じ、利用者の楽しみになっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やリビング、廊下に理念を掲示している。全職員が理念を共有して、業務の中で反映させていけるよう意識し、実践につなげている。また、毎朝の申し送りで、理念の復唱を行っている。	第1グループホームと同じ理念を採用している。地域密着型の理念は館内に貼り出され、週一回職員は読み合わせをしており、福祉サービス提供の場面でも理念を意識して日々の業務を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のゴミ拾い等に行事参加予定だったが、新型コロナウイルス感染症予防のため参加できなかったため、地域貢献につなげられていない。	隣に系列のグループホームがあり、既に地域との交流をしており、第2グループホームも同様に地域交流を行っている。町内会に加入しており、地区の民生委員が運営推進会議に出席している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを予定していたが新型コロナウイルス感染症予防のため、実施できず交流の場が持てなかった。今後も認知症の理解を広めるために認知症カフェを計画していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において民生委員と情報を交換してサービス向上に活かしている。	年6回運営推進会議を予定していたが、コロナ禍のため外部の委員には資料を送付して、ホームの関係者で会議を開催している。会議録は市役所に提出している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議録提出や生活保護受給者の各申請の際等に連絡を取り合い、協力をしていただいている。	運営推進会議録を市役所に提出して、パンフレット等を持参している。生活保護受給に関することやコロナ禍の対応、介護保険について市役所に問い合わせをして指示を受けている。利用者に関することは連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の内部研修で身体拘束の弊害を職員に周知しており、常に意識して介護業務に取り組んでいる。	玄関や居室の施錠をしておらず、身体拘束を行っていない。身体拘束に関して内部研修を開催し、管理者・職員の理解を深めている。2ヶ月に1回、身体拘束に関する委員会を開催している。マニュアルがあり、記録方法も決まっている。	身体拘束は行っていないが、緊急性がある場合に備えて、同意書を整備しておくが良いと思います。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、	内部研修で勉強会を行い、職員の精神面のケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で日常生活自立支援事業や成年後見制度をテーマに勉強会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前からご家族と連絡を取り合い、都度質問や疑問に答えている。契約時は時間をいっただいて書面での説明を丁寧に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等ご家族とコミュニケーションを図り、意見を申し出しやすくしている。また、入居時に苦情相談窓口を説明し、意見投函箱を設置している。	玄関に意見箱が設置されている。重要事項説明書に苦情に関する記載があり、入所時に本人・家族に説明している。面会時に家族から要望を聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで意見や提案を求めたり、また個人面談を実施してより良い職場環境になるよう心掛けている。	毎月1回職員のミーティングがあり、そこで職員は意見を述べることができる。欠席した職員には個別に職員に説明し、意見を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とコミュニケーションを図り、望む職場環境の把握に努めている。休暇は職員が公平に取得できるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成して、内部研修には全職員が参加できる体制を整えている。また、外部研修終了後は、ミーティング時に研修報告会を行う体制にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設職員と交流を図れるように認知症カフェを計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止しており、今後はインターネットを使用した交流機会を考えている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない環境で不安が多いと思われるため、新規入居者様が困っていること等に対して、声を掛けやすい距離を保つようにして関係作りを行っている。また、入居者様が何を求めているか察することができるように観察を強化している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が心配しないよう、2、3日は様子を報告している。また、不安なことや困りごとを傾聴して、丁寧に対応するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活の様子を聞いて、少しでも近い環境で生活できるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の残存機能を生かせるように、生活のうえでできることを一緒に行っていただいている。また、それに対して感謝や敬意を払っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	直接面会ができないため連絡を密に取り合い、入居者様の様子を伝えたり、生活に必要な物の準備をお願いする等して協力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出や面会に制限があるが、ガラス越しでの面会を行っている。また、ドライブ行事では馴染みの場所を通る等の配慮をしている。	入所前の生活歴を把握している。行き慣れた美容院等に行く利用者はいなくなったが、本人が希望する場所へ連れていく等している。自宅近くに外出したり、家族の協力で外出する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を見極めて食席を決めている。孤立しそうなときは、職員が介入して関わり合いができる環境になるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後は、電話や手紙等でコミュニケーションを図る等して、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活ではあるが、入居者様一人ひとりの意向に沿った暮らしを支援できるように、全職員でモニタリングを行っている。意向把握が困難な場合は、入居者様の視点から意向の把握に努めている。	職員は利用者の意向を確認している。自分で話すことができない利用者については、みんなで観察し、カンファレンスや毎日の申し送りを通して、意向確認に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時より入居前の暮らしの把握に努め、ご家族やケアマネジャーと連絡を多くとって情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの現状を毎日記録し、全職員が周知できるように申し送りを徹底している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者だけでなく全職員でモニタリングを行い、現状に合わせた介護計画書を作成することに努めている。	介護計画は個別になっており、介護度や一人ひとりの要望に沿ったサービス提供や支援について検討をしている。定期的カンファレンスを開催し、体調の変化でプラン変更にも取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録は日々の様子、健康状態、特変事項等を記入して、情報共有に活用している。また、ご家族への開示も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、ご家族の状況に合わせ、入院時準備や入院に対応している。入居者様にとって最善であるように、臨機応変に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防のため実現できなかったが、町内会の宵宮や神事、ゴミ拾い等に参加予定であった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様やご家族が希望された場合、ご希望の医療機関を受診できるように主治医と連携を図り体制を整えている。	受診歴を把握しており、入所前の病院を継続して受診することもできる。協力医院があり、24時間訪問診療をしており、希望があれば主治医の変更をすることもできる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師には異変を速やかに伝えて、主治医に報告してもらい、適切な受診看護を受けられるよう支援している。また、日ごろからコミュニケーションを図り、話しやすい環境を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護師等の関係者に、生活上の細かい情報を提供している。また、退院にむけてご家族と協力して病院とのやり取りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを行っているため、入居時に意思確認書と重度化対応、終末期対応指針を説明し同意を得ている。また、状態変化に伴い、都度ご家族の意向を聞きとって医療と連携し、入居者様やご家族の望む支援に努めている。	看取りの指針があり、24時間訪問診療を受けることができる。入所時に看取りの希望を聞き、必要に応じて医師の説明を受け、希望に変化がないかを確認しながら、本人・家族の要望に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修において知識を高めている。また、緊急時携わった職員から対応を記録して、全職員が周知して実践に役立てるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災の避難訓練を実施している。また、川が近く、海沿いの建物であるため、定期的な水害時の垂直避難訓練のほか、日ごろから1階入居者様が2階に移動する機会を増やすため、合同の行事は2階で行うようにしている。	年2回、利用者と職員と一緒に避難訓練を実施している。2階からの避難に滑り台があり、訓練で使用している。夜間想定、災害想定、災害時の備品等の準備も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である入居者様に対して適切な言葉遣いや対応を心掛けている。また、自尊心や羞恥心に配慮して、一人ひとりの人格を尊重したケアに努めている。個人情報管理にも注意している。	利用者は名字にさん付けで呼び、本人・家族の了解を得た呼び方をしている。利用者のプライドを傷つけないように、プライバシーに配慮している。個人情報や守秘義務についても注意してサービス提供をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員主導にならないように入居者様の意向を汲み取って自己決定ができるように支援している。また、入居者様同士の会話から本心の言葉を聞き取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせて職員が動くように心掛けている。また、その日の体調を把握して思い通りに暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類交換の際は、選べる方にはご自身で選んでいただいている。選ぶことが困難な場合は、職員が季節に合わせた衣類を選択している。また、ネイルやメイクをレクリエーションにも取り入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合わせた食事形態としている。職員と共同で、食材の皮むきやカット等の下準備や食後の片づけを行っている。	食事は外注で提供しているが、月1回の給食会議があり、利用者の嗜好に配慮している。行事食は職員の手作りで、食事にプラスした献立を提供している。片づけは利用者と職員が一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を用いて毎日の摂取量を記録している。糖尿病等の病気に応じた提供をしている。嚥下状態が悪い、歯が欠損して噛めない等、個々の状態に合わせた食事を提供して栄養摂取を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けをして歯磨きを促しており、入居者様の力量に合わせて支援している。また、就寝前の義歯の消毒や歯の欠損、痛みの確認を行っており、必要に応じて訪問歯科を受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	プライバシーと羞恥心に配慮しながら排泄の支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄を記録している。自立を目指して、個々にあった支援をしている。オムツの利用にならないように、カンファレンス等で個別に検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、体操や乳酸菌飲料、乳製品の摂取、マッサージ等を行っている。できる限り薬に頼らないように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	基本的に週2回の入浴を設定しているが、希望があればいつでも入浴可能である。また、入浴剤等活用している。	基本は週2回の入浴だが、希望があればいつでも入浴することができる。入浴は個別で、好みに合わせて入浴している。できることは自分で行ってもらい、できないことは介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファや居室等、それぞれ自由に休息できるように支援している。就寝時間は決めておらず、眠くなるまでリビングで過ごせるようにしている。夜間眠れずにいる利用者には、寄り添って安心できるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや誤薬がないように職員間で確認して、飲み込むまで見守りをしている。職員は医薬品情報を確認して薬の把握をして、主治医や薬剤師と連携をとりながら服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力量に合わせて、掃除や食事の下準備等を一緒に行い、役に立っていると思っただけのような場面を提供している。また、集団で行うレクリエーションや行事、3時のおやつ等を楽しく過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で不要不急の外出は控えているが、感染対策をして近隣の散歩や施設の畑に出かける等の支援をしている。	定期的に外出の機会を設けて、散歩やドライブ、買い物等を支援している。一人ひとりの歩行状況や気分に合わせた支援をしている。コロナ禍で外出の機会は減っているが、できる限り外出できるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の財布に現金を入れて所持することができるように、職員は金額の把握に努め、安心感を持っていただいている。また、買い物で支払う際は入居者様に払っていただき、できないときは支援する等、一人ひとりの能力を把握して行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会に制限があるため、電話やビデオ通話を行っており、正月には年賀状を制作して、ご家族に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度の管理を行い、季節に合った装飾をして居心地よく過ごせるように配慮している。	ホールは広く、ソファがあり、過ごしやすい空間になっている。温度や湿度が適切に管理されており、清潔に保持されている。季節に合った飾りつけを行い、過ごやすく環境整備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席とは別にソファを置き、他者と距離をとりたいときや休みたいとき等に使用していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた物等を居室に配置して、安心感を持っていただくように配慮している。	持ち込みは自由で、在宅時に使用していた物を持ってこることができる。利用者一人ひとりに合わせた居室作りをしており、担当職員と利用者が一緒に居室の整理等を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ内に手すりが設置してあり、つかまることで歩くことができ、自力でできることを大切にしている。また、トイレや居室には目で見てわかるように表示している。		